令和６年度　第１回「沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」　会議概要

日　時：令和６年７月23日(火)　14:30～16:30
場　所：沼津市水道部庁舎　３階会議室
資　料：次第、資料 1-1、資料 1-2、
資料 2-1、資料 2-2、資料 2-3、資料 3

１　開会

２　議事

⑴　人口ビジョン・総合戦略の概要

事務局より、資料 1-1、1-2 について説明

⑵　令和５年度の実績評価

事務局より、４つの基本目標（資料 2-1、2-2、2-3)、デジタル田園都市国家構想交付金（資料３）について説明

【基本目標１に対する委員からの意見の概要】

・　事業所数の令和７年度目標 10,000 というのは設定が高い可能性がある。事業所については後継者問題があり、その後継者がどういった状況なのか、また、事業承継の関係でＭ＆Ａができるかどうかもあるように思う。

・　金融機関の支援により、本来はもっと数値が低くなるところ耐えているのではないか。従業者数については事業所の規模や業種にもよるが、機械化による人員減もあるので、そういった産業動向にも目を向けた方が良いと思う。

・　全国的に見ても、事業所は減るべくして減っているため、事業所数が多ければ良いというわけではない。創業支援や事業承継などのバックアップの成果はなかなか目に見えてこないが、大事な点である。

・　沼津の地場産業の視点も大事である。企業は機械化などで省力化を図っているので、製造業の出荷額等を見るのも良い。生産高が伸びている業種も見えてくる。

・　新型コロナウィルスの影響で廃業する事業所もある一方、若い世代で業績を伸ばす事業所もある。事業所数は多いが厳しい状況なのか、事業所数は減っているが業績の良い事業所が増えているのか、難しいがそういったことが読み取れる指標があると良い。

・　創業件数は増えているが、創業の定義はどのようなものか。
→　（政策企画課：回答）開業届や法人設立届の手続きを実施した者の数であり、各支援機関の支援を受けて創業した者の数を取りまとめて実績値として計測している。

【基本目標２に対する委員からの意見の概要】

・　新型コロナウィルスの影響があったところであるが、インバウンドについては今年過去最高を記録するのではないかと認識している。人数とともに消費額も増えているので、消費動向の吟味も必要であると感じる。また、魅力発信の推進では、海外に知ってもらうための取組や指標が必要になってくると思う。

・　中心市街地を歩く人が増えているのは良いことだが、まだまだ市の取組を知らない人も多い。観光と中心市街地は関連性が高いものであるため、市街地で空き家を活用するなど生活体験ができる場を増やすと移住者の増加にもつながるのではないか。

・　中心市街地を歩く人は増えているが、公共交通の利用者が減っている。自動運転の取組もあるので、港だけでなく仲見世商店街と連携していくと良い。

・　まちなか居住の推進と都市的魅力の向上の分野は短期間で指標が変わりにくいため、継続して取り組むことが必要である。

・　沼津市外の方々に、ふるさと納税の魅力はどれくらい伝わっているのか、また、アスルクラロ沼津のホーム戦で、アウェイチームの観客はどれくらいいるのか。
→　（政策企画課：回答）ふるさと納税は、納税額では約 44 億円の寄附を受け、前年度の２倍ほどである。周知については、ポータルサイトを活用しているので、他の自治体の返礼品も数ある中で、沼津の地場産品や特産品をどういう見せ方をしたら選んでもらえるか担当課で工夫をしているところである。また、アスルクラロ沼津については、７月に実施した沼津マッチでは、今シーズン最高となる 5,029 名の観客動員があったが、かなり多くのアウェイのサポーターの来場があったように感じる。

・　広報課とタイアップして沼津の魅力発信をしているのか。
→　（政策企画課：回答）ふるさと納税のポータルサイトでは、サムネイルを工夫しており、広報課においても、動画等でサムネイルを工夫してＰＲしている。ＳＮＳのフォロワー数も伸びていることから、効果的であると感じている。

・　沼津市の観光ポータルサイトやぬまづの宝 100 選、フォトライブラリーなどが別々に掲載されているので情報収集が大変であると感じる。観光客の多くはグーグルの口コミなどを見て観光している。様々な情報をプラットホームとして集約することで見やすさが上がるので、人の流れもできると思う。

【基本目標３に対する委員からの意見の概要】

・　沼津へ移住した方からよく聞く声がある。転勤等に当たり、沼津市、三島市、長泉町、清水町を候補に考えるようだが、長泉町を真っ先に考える方が多い。長泉町は、子育てしやすいという声やイメージが強いからである。しかし、沼津市もほとんど同じサービスをしており、全く劣っていないのに長泉町が選ばれるからには何かが足りない。それはやはり根強いイメージなので、もっと発信していく必要があると感じる。

・　沼津には私学を含めて高校が多い。県知事は、浜松市長時代に高校へ出向いて市のＰＲをしていたと聞く。沼津市は高校生に向けてどのような取組をしているか。

→　（政策企画課：回答）出前講座やフィールドワークを実施することで高校生に市の取組をＰＲしている。

・　教育基本構想は現在もあるのか。

→　（政策企画課：回答）最新のものは令和３年３月に策定している。

・　地域の魅力に気付きにくいということがある。学校の総合学習でも、観光教育を含めて地域について学ぶことが増えてくると思う。ただ地域の産業が何か覚えるのだけでなく、他の地域と比較して自分の地域が魅力的であるということを認識する必要がある。

・　婚姻数の根拠は何か。また、児童ショートステイの利用者が少ないのは、ニーズがないのか、それとも利用しにくいのか。

→　（政策企画課：回答）婚姻数については、市民課で受理した婚姻届の数を計上している。児童ショートステイについては、需要が減っている。

【基本目標４に対する委員からの意見の概要】

・　自治会連合会では、災害、安全、コミュニティ、環境の４部会で活動しているが、自治会アンケートでは、やはり人材不足が否めない。人がいてこその地域自治である。

・　60代になっても働くようになっているため、自治会の担い手は不足している。人材確保は重要な課題である。

・　ＰＦＩによる公営住宅建替えがされているが、人口が増加している都市を見ると、３ＬＤＫの間取りがポイントになっている。

【委員会全体に対する委員からの意見の概要】

・　まち・ひと・しごと創生に長きに渡って取り組んでいるが、人口減に対する緩和策と人口減となっても快適に人々が暮らせるようにという２点が大事である。緩和策ばかりに目を向けるのではなく、人口は減っていくという中でどう取り組んでいくか、県や市で力を合わせて取り組んでいく。

【デジタル田園都市国家構想交付金事業実績に対する委員からの意見の概要】

・　計画の指標で見るとなかなか厳しいところもあるが、このように事業で見ると前進している。今後の事業展開にも期待する。

３　その他

⑴　人口ビジョンの改定について

人口ビジョンの基礎資料となる「人口動態統計特殊報告」を国が公表したところである。ビジョン改定について、国や県の動向を注視しながら対応する。

⑵　次期委員会の委員選出について

今期の任期が満了するため、次期委員会の組織について説明した。

４　閉会